

新型コロナワクチンQ&A

あなたの疑問・不安に お答えします



新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。菅義偉総理は、「一日も早く全ての国民の皆さまに安全で有効なワクチンをお届けしたい。そのために全力で取り組んでいく」と決意を述べました。国民の皆さまの安心のため、政権与党として、的確な情報を迅速にお届けすることは、私たち自民党の重要な責任だと考えています。そこで、よくある素朴な疑問をQ&A形式で分かりやすくまとめましたので、お届けします。

ワクチンの効果

Q.1

**ワクチンの
予防接種とは
何ですか。**



一般に、感染症にかかると、ウイルスや細菌など原因となる病原体に対する「免疫」(抵抗力)ができます。免疫ができると、その感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりします。このような体の仕組みを使って病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くしたりするのが予防接種です。

Q.2

**どのような効果が
期待されていますか。**

新型コロナワクチンには、主に発熱やせきなどの発症や重症化の予防が期待されています。ワクチンの入った注射をしたグループでは、新型コロナウイルス感染症の症状が出た人の数が、ワクチンが入っていない注射をしたグループより95%少なかったとの報告があります(令和3年2月15日現在)。多くの方が接種すれば、重症者や死亡者を減らし、医療機関の負担を減らすことが期待できます。

Q.3

**変異株には
対応できますか。**



一般に、ウイルスは絶えず変異をおこしていくもので、小さな変異でワクチンの効果がなくなるというわけではありません。ファイザー社のワクチンでは、変異株の新型コロナウイルスにも作用する抗体がつくられた、といった実験結果が発表されています。

Q.4

**安全性は? 副反応も
気になるのですが。**

どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります。ワクチン接種では、体内に異物を投与するため、接種した所の腫れ・痛み、発熱、頭痛などが起こることがあります。接種後に、ワクチン接種と因果関係が不明なものも含めて、接種部位の痛みや、頭痛・倦怠感・筋肉痛等の副反応がみられたことが論文等に発表されています。米国でファイザー社の新型コロナワクチン接種後に報告されたアナフィラキシー(急性アレルギー反応)は、100万回あたり4.7例です。74%が接種後15分以内、90%が接種後30分以内に症状が現れています。また、接種会場には必ず医師がいますので、アナフィラキシーが起きたときには、その場ですぐに治療を受けることができます。

Q.5

**誰でも、
ワクチン接種
できますか。**



一般に、以下の方などはワクチンを受けることができません。

- ・明らかに発熱している方※1
- ・重い急性疾患にかかっている方
- ・ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症※2の既往歴のある方

※1 明らかな発熱とは通常37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

※2 アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

Q.6

**接種で注意すべき点
はありますか。**

一般に、以下の方は注意が必要です。

- ・過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
- ・過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ・過去にけいれんを起こしたことがある方
- ・ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれのある方

また、新型コロナワクチンは筋肉内に注射するため、抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害(血友病など)のある方は、接種後の出血に注意が必要とされています。妊娠中、授乳中の方も、新型コロナワクチン接種を受けることができます。日本産婦人科感染症学会・日本産科婦人科学会は、「感染リスクが高い医療従事者、重症化リスクがある可能性がある肥満や糖尿病など基礎疾患を合併している方は、ワクチン接種を考慮する」と提言しています。

Q.7

**ワクチン接種は、必ず受けないと
いけないのですか。**

ワクチン接種は、予防接種法に基づく「努力義務」であり、強制的に接種を行うものではありません。接種の対象となるのは、16歳以上の方です。なお、妊婦の方は、現時点で安全性に関するデータが不足していることから、「努力義務」の対象ではありませんが、希望すれば、ワクチン接種を受けることができます。授乳中の方も含め、ワクチン接種を受ける際は、主治医にご相談ください。また、16歳未満の子供は、大人と比べて新型コロナウイルスに感染しにくく、感染したとしても重症化は見られず、国内において亡くなったという報告もありませんので、ワクチン接種の対象になっていません。

接種にあたって

Q.1

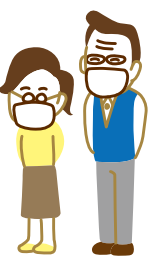
いつから開始されるのでしょうか。

令和3年2月17日から、まずは医療従事者(約370万人)への接種を開始しました。その後、4月頃から、重症化のリスクが高い高齢者(65歳以上/約3600万人)、次いで基礎疾患をお持ちの方(約820万人)、高齢者施設等の従事者(約200万人)、60～64歳の方(約750万人・ワクチン供給量による)に優先的に接種していただいた後、全国民向け(16歳以上)の接種を開始する予定です。

Q.2

ワクチン接種が優先される高齢者とは、何歳からでしょうか。

65歳以上です。



Q.3

いつごろ 接種券(クーポン)は届くのでしょうか。

標準的には令和3年4月23日頃までに、まずは65歳以上の高齢者の皆さまにワクチン接種券を送付する予定です。その他の方は、準備が整い次第、接種券を住民票に記載された住所に郵送します。

Q.4

どこで、接種できますか。

原則、住民票がある市町村(住所地)の医療機関や接種会場で接種できます。なお、次のような方は、住所地以外でもワクチン接種できる見込みです。

- ・住所地以外の医療機関や施設に入院、入所している方
- ・基礎疾患で治療中の医療機関でワクチンを受ける方
- ・お住まいが住所地と異なる方

Q.5

どのような流れで、接種できますか。

次のような流れになります。

- (1) 市町村から「接種券」と「新型コロナワクチン接種のお知らせ」が届きます。
- (2) ワクチンを受けることができる医療機関や接種会場をご確認ください。
- (3) 電話やインターネットでご予約ください。
- (4) 接種の際には、「接種券」と運転免許証、健康保険証など「本人確認書類」をお持ちください。



Q.6

何回、接種しますか。

ファイザー社のワクチンは標準としては、1回目から3週間後に2回目を受けることになります。

※ 一番早くて19日後(木曜日に1回目の接種を受けた場合、3週間後の火曜日)に接種を受けられます。



Q.7

ワクチンの種類は選べますか。

選べません。接種を受ける時期に供給されているワクチンを接種することになります。また、複数のワクチンが供給されている場合も、2回目の接種は、1回目に接種したワクチンと同じ種類のワクチンを接種することが推奨されています。

Q.8

費用はかかるのですか。

自己負担はありません。外国人も含め、接種の対象となる全ての住民に全額公費で接種を行う見込みです。



Q.9

ワクチンの優先接種が受けられる基礎疾患(しっかん)を有するとは、どのような場合を指すのでしょうか。

慢性閉塞性肺疾患(COPD)、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患などです。接種券がお手元に届いたら、接種予約時に基礎疾患がある旨を申告してください。優先的に接種が受けられるよう、市町村が対応します。

Q.10

基礎疾患を持っている人には、市町村から優先的に接種券が郵送されてくるのでしょうか。

国や地方自治体は、国民一人ひとりの基礎疾患に関する情報を持っておらず、接種券がお手元に届いてからの「自己申告制」になります。

Q.11

2回目のワクチン接種までに、1回目の接種記録が記された接種券を紛失した場合、どのように対応したら良いでしょうか。

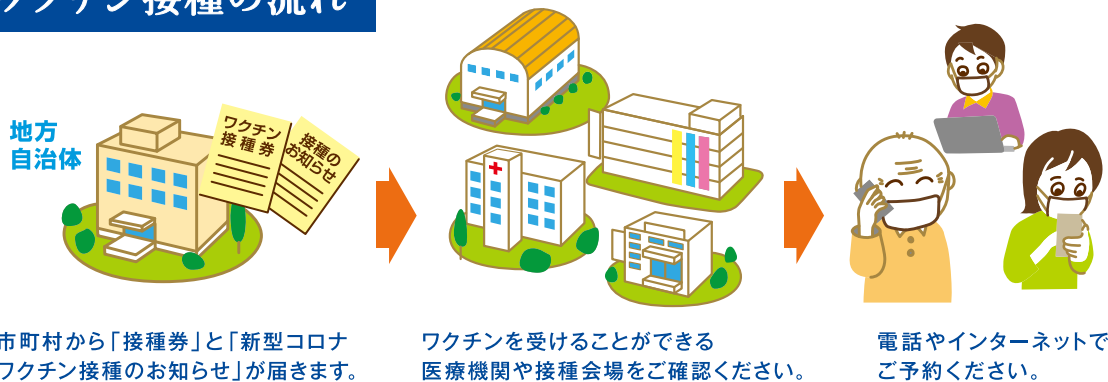
接種券を紛失された場合、まずは、お住まいの地方自治体等にお問い合わせください。接種券を紛失すると2回目の接種が遅れる可能性がありますので、十分にお気を付けください。

Q.12

接種すれば、感染対策は不要になりますか。

現在得られている報告によれば、ワクチンはウイルスに感染しても発症したり重症となる可能性が低くなりますが、全く感染しなくなるわけではありません。引き続き、密集・密接・密閉の「3つの密」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒などが必要です。

ワクチン接種の流れ



※掲載内容は、令和3年4月2日時点のものです。

最新情報は
随時更新しておりますので
こちらからご確認ください。



首相官邸HP
新型コロナワクチンについて



首相官邸
新型コロナワクチン情報
Twitter
「@kantei_vaccine」



厚生労働省HP
新型コロナワクチンQ&A



自民党広報本部
カフェスタ
新型コロナワクチンQ&A